

「津軽剛情張大太鼓」出陣

青年会議所

弘前ねぶた位置情報も試験導入

弘前青年会議所は28日、3年ぶりの弘前ねぶたまつり合同運行初日の1日に「津軽剛情張大太鼓」が出陣すると発表した。出陣に際しては伝統文化継承への思いから、たなき手や囃子方として弘前大学のサークル「弘大囃子組」が加わる

予定で、直径約4メートルの迫力ある大太鼓の響きが初日のトリを飾る。新型コロナウイルス感染症防止策として、弘大との連携で、ねぶたに全地球測位システム（GPS）を搭載し、運行時にリアルタイムでねぶたの位置を把握できるシステムを試験導入する。

「津軽剛情張」は担い手不足などを理由に、2013年の祭りから断念していた経緯があり、この後、弘前青年会議所が地域の貴重な財産である大太鼓を何とか活用しようと18年に6年ぶりに復活した。しかし、20、21年は新型コロナウイルスの影響で祭りが中止となり、今夏は3年ぶりの出陣となる。

大太鼓は初日の1日のみの出陣で、18、19年に引き続き「弘大囃子組」の学生たち約30人が協力。3年ぶりの祭り開催とあって、祭りに参加経験のない学生も練習の成果を披露して運行を盛り上げる。

ねぶた位置情報システムは、19年に弘前大学理工学部 丹波澄雄准教授の研究室で試験的に行った取り組み。今回は新型コロナウイルス対策の一環で、弘前青年会議所が弘大と連携して試験運用する。各団体のねぶたなどにGPSを取り付け、位置情報をインターネット上で公開する。1～6日に16団体に取り付ける予定。コロナ禍の祭り対策として、見物客が自分の見たい



津軽剛情張大太鼓の出陣とねぶた位置情報システムをPRする高野委員長（左）と今井副理事長

ねぶたの位置情報を知ることが人の流れを把握でき、密の回避につながることを期待される。コロナ収束後の祭りでも、各団体が自分の団体のねぶたの位置を把握できるため、円滑な運行に役立つと期待される。情報は弘前青年会議所のホームページやフェイスブックから公開サイトを探すことができる。若手絵師のねぶた絵を採用し、サイトのQRコードも載せたうちを配布する予定だ。

28日、弘前市役所で開かれた記者会見で、弘前青年会議所の担当委員会の高野委員長はシステムについて「今後も活用できれば、伝統を守りつつ最新技術も取り入れた祭りとなり、観客へのアピールにもなる」とPR。

同会議所の今井和之副理事長は「弘前の伝統をしっかり継承していきたい」と、楽しく安全に運行したい」と意気込みを語った。

(成田真由美)

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp